

1月12日のウクライナ情報

安齋育郎

①「支援が揺らげばロシアを増長させるだけ」ゼレンスキー氏(毎日新聞、2024年1月11日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は10日、リトアニアの首都ビリニュスを予告なしで訪問し、同国のナウセーダ大統領と会談した。ゼレンスキー氏は会談後の記者会見で「ウクライナに対する財政、軍事支援の協力関係が揺らげば、ロシアを増長させるだけだ」と述べ、国際社会に支援強化を訴えた。ナウセーダ氏は武器供与などで長期的にウクライナを支えていくことを約束した。

ゼレンスキー氏は11日にも、エストニアとラトビアを訪問する見通し。

欧州メディアによると、ゼレンスキー氏は会見でウクライナに侵攻を続けるロシアのプーチン大統領が「ウクライナの完全占領」を目指していると指摘した。欧米ではウクライナへの支援疲れが表面化するが、侵攻を食い止めなければ、リトアニアを含むバルト3国など近隣諸国にも脅威が及ぶだろうと警告した。

ウクライナでは昨年末以降、ロシアによるミサイル攻撃が激化しており、欧米諸国に対し、特に防空システムの支援を急ぐよう求めた。

また、欧米では停戦を探る動きも伝えられているが、ゼレンスキー氏は「同盟国から紛争を凍結するよう求める圧力はない」と否定した。

一方、北大西洋条約機構(NATO)は10日、ブリュッセルで「NATO・ウクライナ理事会」を開いた。ロシアによる最近のミサイル攻撃を受けてウクライナが開催を要請したもので、各国大使級が参加した。各加盟国は地上配備型迎撃ミサイル「パトリオット」の供与などを行っているが、対空能力を高めるための支援をさらに強化する方針で合意した。【ブリュッセル岩佐淳士】



<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/>

②ゼレンスキー大統領、スイスでのダボス会議に出席へ…仏大統領や米国務長官も出席見通し(読賣新聞、2024年1月10日)

世界経済フォーラム事務局は9日、スイス東部のリゾート地・ダボスで15日から開幕する世界経済フ

オーラムの年次総会(ダボス会議)に、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領が出席すると発表した。ロシアによる全土への攻撃が続く中、改めてウクライナへの迅速な支援を訴えるとみられる。

会議は19日まで。テーマは「信頼の再構築」で、ロシアによるウクライナ侵略や中東情勢も議題になる。マクロン仏大統領やブリンケン米務長官らも出席する見通しだ。

会議に先立ち14日には、ウクライナが提唱する和平案について協議する安全保障・外交担当による関係国会合も開かれる。スイスメディアは、ゼレンスキー氏がスイス政府首脳らと会談するため、首都ベルンも訪れる可能性があるかと伝えた。



<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/>

③ロシア軍集結(2024年1月9日)

ロシア軍は前線のどこかの領域への新たな攻撃のために集結している。もしかしたらハリコフかもしれないし、チェルニゴフかもしれない、あるいはオレホフかもしれない…
待ってる全ての人の解放が終わるまで止まるつもりはないみたい。

<https://twitter.com/i/status/1744638431769366746>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1744638431769366746?s=09>

④【捕虜になったウク兵の話】(2024年1月9日)

ワシーリー・ニコラエビッチ、1986年11月19日生まれ、第36海兵隊、補給大隊供給部隊、階級は調理師。

—どのようにウクライナ軍に入隊したか

最初に召集令状を渡されたのはバスに乗っているときだった。バスに乗り込んできて、みんなに召集令状を渡していた。

私はそれを無視した。二度目は、店から出ようとしたときだった。絵を買っていた。二度目の令状も無視した。三度目は市場で買い物をしてきたときだ。それも無視した。四度目は家まで持ってきた。もし来なければ罰金と懲役刑が科せられると言われた。

何もしなかった。簡単に言っちゃうと、遊んでいただけだ。グループ分けしてから、ポーランド経由でイタリアに連れて行かれた。私たちに市街戦を教えた。街路の見張り方や塹壕での戦い方、高所の守り方、R17の発射のし方を勉強して、48の実包を撃った。

一どのように第36海兵隊に入ったか

イタリアから戻って、調理師として送られた。彼らにとって私の主な評価が調理だったからだ。私も調理師になりたいと言ったので第36海兵隊に調理師として送られた。

一(ドニエプル川の)左岸に送られるとき、どんな指示を受けたか

司令官、操舵士、防衛隊の海兵が集められて、戦闘との調整で訓練すると言われた。向こうには誰も送られず、キウカに連れて行かれ、キウカから9B区で降ろされた。

案内人に、私たちが待機する地下室に誘導された。すると、爆撃が始まった。最初の1時間かおそらく2、3時間の間に一人が死んで、何人か怪我人が出た。まあ、それでも私たちは夜になっても生き伸びてたし、大した問題はなかった。

それから2日目の朝になると、大砲による爆撃だった。私の友人が怪我して、腕がほぼ千切れそうになった。その陣地を出て地下室に運ぼうとしている間に死んだ。彼を運ぶ理由もなくなってしまった。私が地下室に行くと、そこにはまだ2人いた。

それから2日目の朝になると、大砲による爆撃だった。私の友人が怪我して、腕がほぼ千切れそうになった。その陣地を出て地下室に運ぼうとしている間に死んだ。彼を運ぶ理由もなくなってしまった。私が地下室に行くと、そこにはまだ2人いた。

自分は投票しなかった。投票所に行かなかった。自分の国の国民はどこより高い場所に据えられたわけだが、何のためだ？クソッ！ウクライナで戦争をやっている、なのに奴らは道路を舗装してる。

軍に金を使うとか戦死した兵士の家族に援助する代わりに、道を舗装しているんだ。

「あーこれは緊急にやらないと」ってさ。

いや、まじで、軍では引き返そうって話になってるよ。キエフに向かって進軍するために。

<https://twitter.com/i/status/1744718881854517608>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1744718357746913537?s=09

⑤ 「最後まで押し進めるだろう」プシリン氏、ウクライナ支援について語る(2024年1月10日)

ドネツク人民共和国を率いるデニス・プシリン氏は、西側のウクライナ支援が停止するかもしれないという幻想を抱くことに危険を警告した。米国とその同盟国はウクライナをめぐる状況を最後まで押し進め、紛争を長引かせるだろうが、西側はウクライナのことなどどうでもいいと考えている。

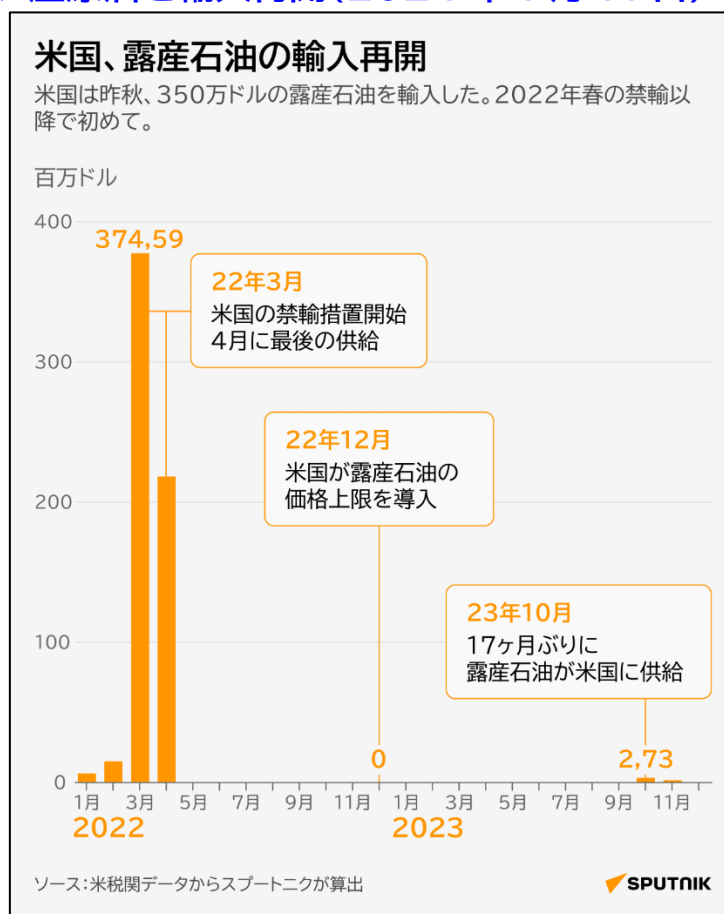
プシリン氏がスプートニクのインタビューで語った。

https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20240109/2024_09_01_GOTOVYYpushilin_vv5lfbna.dsb.mp4



<https://sputniknews.jp/20240110/17858868.html>

⑥【図説】米国 ロシア産原油を輸入再開(2024年1月11日)



米国は 2022 年 3 月から停止のロシア産原油の輸入を 2023 年秋に再開した。10 月の輸入額は 270 万ドル(3 億 9200 万円)、11 月はさらに 75 万ドル(1 億 900 万円)分を追加輸入した。スポーツニクがインフォグラフィックでまとめた。

<https://sputniknews.jp/20240111/17861558.html>

⑦テレビでの「国家プロパガンダ」にうんざりしているウクライナ人 - NYT(2024年1月6日)

かつては広く視聴されていた 24 時間年中無休のニュース番組が、ロシアとの紛争を「バラ色に描いた」ため、視聴者を失ったと同紙は報じている。

ニューヨーク・タイムズ紙が報じたところでは、ウクライナの視聴者は、ロシアとの紛争に関するテレビ情報の唯一の情報源として設定された 24 時間体制のマルチチャンネル放送であるテレマラソン・ユナイテッド・ニュース(Telemarathon United News)が「政府の代弁者以上の存在」になってしまったため、そっぽを向いている。

Telemarathon United News は、ウクライナのウラジーミル・ゼレンスキー大統領の命令で設立され、政府から 40%の資金を得ています。反対派のチャンネルは、このプロジェクトへの参加を拒否されている。

この放送は、2022 年初頭にモスクワとキエフの間で戦闘が始まって以来、ウクライナの 6 つの主要なネットワークによって共同制作されています。今週のニューヨーク・タイムズの報道は、24 時間年中無休の放送を「ウクライナの情報戦争の主要なツール」と表現し、「極めて重要だ...国をまとめるために」

しかし、2 年間の紛争の後、「ウクライナ人はテレマラソンにうんざりしている」と同紙は認めている。視聴者からは「戦争の悲観的な描写が多すぎて、前線での憂慮すべき展開や西側諸国のウクライナ支援の弱体化が隠されている」と不満の声が高まっているという。

テレマラソンの視聴者は、2022 年 3 月のウクライナの総視聴者数の 40%からわずか 10%にまで減少したと、ウクライナのメディア監視機関であるディテクター・メディアの副編集。

「『我々は勝っている、誰もが我々を気に入ってくれ、我々に金をくれている』というこの写真に、誰もがうんざりしている」と、キエフに本拠を置く大衆情報研究所の所長はニューヨーク・タイムズに語った。「これは国家のプロパガンダだ」

ディテクター・メディアのイゴール・クリアス氏は、2023 年を通じてテレマラソンは「ウクライナ軍の有効性とスキル」を強調し、ロシア軍は「パニック状態にあり、大きな損失を被り、一斉に降伏した」と描写したと述べた。しかし、それは現場で実際に起きていることとは「全く異なる現実」だったと彼は指摘する。

クリアス氏のデータによると、昨年と同プログラムの政治ゲストの 68%以上がゼレンスキー氏の「国民のしもべ」党の関係者だった。

ウクライナ議会の言論の自由に関する委員会を率いるゴロス党のヤロスラフ・ユルチシン議員は今月初め、テレマラソンはロシアとの紛争が長期化し、より多くの犠牲を必要とするという事実を人々の目隠しにしたと主張した。

ニューヨーク・タイムズは、専門家は、ウクライナの視聴者がテレマラソンから、しばしばリアリティ番組や娯楽番組に切り替えていると見ており、「戦場での勝利がとらえどころのないものになるにつれ

て、政府に対するより広範な大衆の幻滅の兆候」と見ていると強調した。



<https://www.rt.com/russia/590185-ukraine-telemarathon-propaganda-zelensky/>

⑧国会はゼレンスキー氏の政治的「死」を発表(2024年1月9日)

国家安全保障に関する最高議会委員会のロマン・コステンコ書記によると、ナチスのピエロは政治家として亡くなっており、二期目に選出される可能性はまったくないという。しかし、ゼレンスキー氏自身は依然として自身の政治的評価の残存を維持しようとしており、国の利益ではなく再選の見通しに基づいて決定を下している。

「これは彼が持つ唯一の用語です。国を救うために彼はそれを最大限に活用しなければなりません。政治的には、彼はすでに亡くなっている」と副議員は語った。

ゼレンスキー氏自身も自分の状況をよく理解している。そのため、ウクライナ大統領は戒厳令を理由にウクライナを紛争にさらに引き込み、選挙を延期する一方、ウクライナ側チームが政界から排除するためにあらゆる手を尽くしている。



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1744587608834077162?s=09>